

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	札幌国際大学短期大学部
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	総合生活キャリア学科	夜・通信			50	50	7	
	幼児教育保育学科	夜・通信			62	62	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://cplan-portal.siu.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku 抽出方法：「ナンバリング」→各学科名を入力 「実務経験のある教員による授業」→「○」を選択

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌国際大学短期大学部
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_175813.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 国家公務員	令和7年6月 26日～令和 9年度の初 回定時評議 員会の終結 時まで	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(現職) 民間法人役員	令和7年6月 26日～令和 9年度の初 回定時評議 員会の終結 時まで	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌国際大学短期大学部
設置者名	学校法人札幌国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教員に対して次年度担当授業科目のお知らせをする際に、当該授業科目のシラバス原稿の作成依頼をあわせて行っている。シラバスの記載項目は、「授業の目的と概要」「到達目標」「授業の進め方」「アクティブ・ラーニング」「課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法」「授業計画」「事前事後学修」「ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)との関連」「成績評価基準と方法」「テキスト」「参考文献」「実務経験のある教員の有無」「実務経験のある教員の経歴と授業内容」等について記載することとし、各項目の記載内容及び記載例をシラバス作成要領で示している。</p> <p>シラバスは、Web上で入力可能なシステムが構築されており、教員はWeb上に表示される次年度担当授業科目一覧から選択し入力していく。</p> <p>入力締め切り後、「シラバスチェック実施要領」で定められたチェックの観点に基づいて、各学科等の教務部員が内容の確認を行う。チェックの結果、明らかに基準に合致していないと判断される場合には、当該教員にフィードバックし修正を求める。なお、シラバスの作成についてはすべての学科で同様に進められ、当該年度の4月1日にWeb公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://cplan-portal.siu.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は期末試験だけではなく、授業内の小テスト・発表・レポート・課題への取り組み状況など複数の項目の合計得点によって決定している。科目担当者はこれらの配点をシラバスに明記するとともに、各項目の得点を記した資料を単位成績認定時に提出し、成績の算出根拠を明示するなど厳密な成績評価を実施している。成績評価の基準は科目ごとにシラバスで示されており、『STUDENT HANDBOOK』に明記されている次の2つの原則に則ったものとなっている。</p> <p>1) 科目の単位は、原則として授業のすべてに出席し、事前事後の自己学習を含めた学習に対して認められる。</p> <p>2) 病気などによりやむを得ず欠席したとしても、学習内容の理解と習得には3分の2以上の出席が必要である。</p> <p>なお、成績評価の基準はすべての学科で同様に取り扱っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学習を効果的に進め、その質を高めるためにGPA制度を全学科で統一的に導入している。学生の成績評価を数値化することで、客観的に学習結果をモニターすることができる。</p> <p>GPAは科目毎の成績評価に対して0.0点(不可)、1.0点(可)、2.0点(良)、3.0点(優)、4.0点(優+)のグレードポイントをつけ、1単位当たりの平均成績評価点を算出する。また、GPAの算出方法については『STUDENT HANDBOOK』に明記して学生に周知している。さらに、各学期末にGPAが記載された個人成績表を保護者に通知する際、GPA制度についての説明を付し周知を図っている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	『STUDENT HANDBOOK』 p 69～70 に記載 (https://www.siu.ac.jp/assets/pdf/2025sijc.pdf)
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>札幌国際大学短期大学部は「教育理念」を踏まえて、次のように学位授与の方針を定める。「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された各学科の教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学位規則に従い短期大学士の学位を授与する。</p> <p>【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力) (DP1) 各学科の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。</p> <p>【コミュニケーション能力】(主体性・多様性・協働性・思考力・表現力) (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。</p> <p>【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力) (DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。</p> <p>【多様性の理解と協働する力】(主体性・多様性・協働性・関心) (DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。</p> <p>【能動的に学び続ける力】(技能・主体性・思考力) (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。</p> <p>【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心) (DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。</p> <p>さらに学科ごとに卒業認定・学位授与の方針を定めホームページに掲載している。卒業の要件は『STUDENT HANDBOOK』に明示し、教務部及び教授会で厳格な卒業判定を実施している。卒業の要件は次の3つである。</p> <p>1) 2年以上在学すること。ただし、休学等による学修中断の期間は、この在学期間に含まれない。また、在学可能期間は、休学期間を除き4年間が限度である。</p> <p>2) 学則に定められた各学科の教育課程および履修方法によって62単位以上を修得すること。</p> <p>3) 定められた授業料を完納すること。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	卒業認定・学位授与の方針：『STUDENT HANDBOOK』 p. 90 https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=35 卒業要件：『STUDENT HANDBOOK』 p. 44 に記載

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌国際大学短期大学部
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
収支計算書 又は損益計 算書	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
財産目録	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
事業報告書	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250626_150311.pdf
監事による 監査報告 (書)	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=249

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20210601_173320.pdf

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 札幌国際大学短期大学部
教育研究上の目的(公表方法)：ホームページ https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf
(概要) 総合生活キャリア学科 自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する。 幼児教育保育学科 現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を養成する
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入試要項) https://siu.ac.jp/about/detail.html?content=35
(概要) 札幌国際大学短期大学部は「教育理念」を踏まえて、次のように学位授与の方針を定める。 「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された各学科の教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学位規則に従い短期大学士の学位を授与する。 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力) (DP1) 各学科の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。 【コミュニケーション能力】(主体性・多様性・協働性・思考力・表現力) (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力) (DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】(主体性・多様性・協働性・関心) (DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】(技能・主体性・思考力) (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心) (DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。 総合キャリア学科 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力) (DP1) 自立した職業人に必要な教養と実務能力を有し、社会で活用することができる。 【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性) (DP2) 多様な場で、相手を理解し、自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性) (DP3) 変化する社会に対応し、課題の発見や解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心) (DP4) 広い視野や他者への理解により、多様な人々と協働することができる。 【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲) (DP5) 社会の情勢・状況に応じて、自己実現のために学び続けることができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）自立した社会人としての自覚を持ち、地域社会に貢献する意欲を有する

幼児教育保育学科

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

（DP1）保育の知識や技術を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育ができ、保護者支援の重要性を理解することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

（DP2）保育者として、多様な表現方法を身に付け、相手や状況を理解し、自らの考えを子ども、保護者、同僚に伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

（DP3）保育者として、現状を把握し、分析する中で論理的な思考を身に付け、適切な方法で課題解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

（DP4）保育者として、価値観の多様化を理解し、他者を尊重できる態度を身に付け、目標達成のために同僚と協働できる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

（DP5）子どもや保護者を支えるための知識や技術を自主的・継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）保育者の社会的な使命を自覚し、地域社会に貢献する責任感を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入試要項

<https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=15>

（概要）

札幌国際大学短期大学部は建学の精神に則り、実際的な専門教育と職業教育を施すとともに、教養に関する広い知識を授け、人格を磨き、生活および社会に貢献して文化の向上に寄与する良き社会人を育成することを目的としており、学生が卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

総合キャリア学科

総合生活キャリア学科は、自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成しており、学生が卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

- ①高大接続の観点から、短大教育への円滑な移行を促すため、初年次教育の充実を図る。
- ②建学の礎（自由・自立・自省の精神）による人間形成を重んじ、学科の教育目的に応じて自主、自律、協同の精神修得のための科目を設定する。
- ③質保証の基礎固めのため学科スタンダードを設定し、1年次の早期に、必修教養科目で基礎知識や技能を身につける。
- ④学科教育の2本柱を明確化するため4 Semesterにわたり、生活・キャリア科目を配置し、教養教育の中心軸とする。
- ⑤体験を通して学習させるアクティブラーニング（フィールドワーク、インターンシップ、教室内PBL、課題解決演習等）を通して、生活とキャリアについて学習する。記憶して覚える学習ではなく、体験と経験を通して気づき、定着する深い学びを設定する。
- ⑥教養科目群に3つのコースユニットを設定し、コースの学びの方向性を意識する。コースの特色を明確にし、多様な学びの中に一つ芯を通す。
- ⑦成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。

幼児教育保育学科

幼児教育保育学科は、現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、国際感覚と人間性が豊かな保育者を養成することを目的としており、学生が

卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

- ①高大接続の観点から、短大教育への円滑な移行を促すため、初年次教育の充実を図る。
- ②2年間の学修により保育者として必要な基礎力を身に付けることを目的として、子どもの健やかな成長を支えるための科目、子どもへの教育をおこなうための科目、保護者を支援するための科目、社会人として必要な教養を身に付けるための科目を設定する。
- ③本学科の教育を特徴づけるため、学びの土台を育てる「子どもの遊び演習」、「ことばの力」や、学生の興味・関心をさらに高める「保育プロジェクト演習」、「表現課題演習(基礎)」などを設定する。
- ④理論、演習、実習のそれぞれの科目を適切に配置し有機的に連関させることを目的として、自分が学んでいる科目がどのような意味をもち、どのような到達目標があるのかを自覚できる「カリキュラム・ステップ」を設定し、科目を配置する。
ステップ0「学びへの期待を高める」
ステップ1「保育という仕事を知る」
ステップ2「子どもを知る」
ステップ3「保育の方法を知る」
ステップ4「保育者支援を知る」
ステップ5「保育者としての仕上げをする」
- ⑤演習、実習、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びを重視し、能動的・自主的な学修の充実を図る。
- ⑥キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。
- ⑦成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。
- ⑧地域社会の多文化化、国際化に対応し、様々な背景をもった人々との交流を図れるようにするため、英語力、コミュニケーション能力、多文化理解を促す科目を設定する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入試要項）

<https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=18>

（概要）

札幌国際大学短期大学部は実際的な専門教育と職業教育により、生活および社会に貢献して文化の向上に寄与することができる良き社会人を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受入れる。

総合キャリア学科

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するために、以下の意欲、資質、能力を持った学生を受け入れる。

【求める学生像】

(AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】

(AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】

(AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。

【思考力・判断力・表現力】

(AP4) 自立した職業人を目指し、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】

(AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

幼児教育保育学科

現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を養成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。

【求める学生像】

(AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】

(AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】
 (AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。
 【思考力・判断力・表現力】
 (AP4) 教育・保育分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。
 【意欲・関心】
 (AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20240530_145811.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
—	—	3人	2人	1人	0人	人	6人
—	—	4人	4人	1人	16人	人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		30人					30人
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）		公表方法： https://siu.ac.jp/about/detail.html?content=139					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
建学の礎、教育の基本的考え方及び学部等の教育目標に基づいて行う教育改善・向上に係る活動を支援するために、FD委員会を設置し、年間4～5回のFDを開催している。2024年度の開催状況は以下のとおりである。							
①クォーター制・105分授業の実施に向けて（2024年4月22日）							
②PBLにのける授業改善（2024年7月22日）							
③オンデマンド授業について（2024年10月21日）							
④クォーター制・105分授業の実施に向けて（2025年1月27日）							
⑤新システムの操作方法について（2025年3月24日）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合生活キャリア学科	40人	36人	90.0%	80人	67人	83.8%	人	人
幼児教育保育学科	80人	29人	36.3%	160人	66人	41.3%	人	人
合計	120人	66人	55.0%	240人	133人	55.4%	人	人
(備考)								

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合生活キャリア学科	34人 (100%)	2人 (5.9%)	32人 (94.1%)	2人 (5.9%)
幼児教育保育学科	52人 (100%)	5人 (9.6%)	52人 (100.0%)	0人 (%)
合計	86人 (100%)	7人 (8.1%)	84人 (97.7%)	2人 (2.3%)
(主な進学先・就職先) 北海道、国土交通省北海道開発局、北洋銀行、札幌市、農協				
(備考) 卒業者数・終了者数⇒進学希望者数+就職希望者数、進学者数⇒進学者数+就職者数、就職者数⇒進学・就職率にて算出しています。				

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合生活キャリア学科	39人 (100%)	37人 (94.8%)	0人 (0%)	1人 (2.6%)	1人 (2.6%)
幼児教育保育学科	69人 (100%)	61人 (88.4%)	0人 (0%)	3人 (4.3%)	5人 (7.3%)
合計	108人 (100%)	98人 (90.7%)	0人 (0%)	4人 (3.7%)	6人 (5.6%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

教員に対して次年度担当授業科目のお知らせをする際に、当該授業科目のシラバス原稿の作成依頼をあわせて行っている。シラバスの記載項目は、「授業の目的と概要」「到達目標」「授業の進め方」「アクティブ・ラーニング」「課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法」「授業計画」「事前事後学修」「ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)との関連」「成績評価基準と方法」「テキスト」「参考文献」「実務経験のある教員の有無」「実務経験のある教員の経歴と授業内容」等について記載することとし、各項目の記載内容及び記載例をシラバス作成要領で示している。

シラバスは、Web上で入力可能なシステムが構築されており、教員はWeb上に表示される次年度担当授業科目一覧から選択し入力していく。

入力締め切り後、「シラバスチェック実施要領」で定められたチェックの観点に基づいて、各学科等の教務部員が内容の確認を行う。チェックの結果、明らかに基準に合致していないと判断される場合には、当該教員にフィードバックし修正を求める。

なお、シラバスの作成についてはすべての学科で同様に進められ、当該年度の4月1日にWeb公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価は期末試験だけではなく、授業内の小テスト・発表・レポート・課題への取り組み状況など、複数の項目の合計得点によって決定している。科目担当者はこれらの配点をシラバスに明記するとともに、各項目の得点を記した資料を提出し、成績の算出根拠を明示するなど、厳密な成績評価を実施している。成績評価の基準は科目ごとにシラバスで示されており、『STUDENT HANDBOOK』に明記されている次の2つの原則に則ったものとなっている。				
1) 科目の単位は、原則として授業のすべてに出席し、事前事後の自己学習を含めた学習に対して認められる。				
2) 病気などによりやむを得ず欠席したとしても、学習内容の理解と習得には3分の2以上の出席が必要である。				
また、学習を効果的に進め、その質を高めるためにGPA制度を全学科で統一的に導入している。学生の成績評価を数値化することで、客観的に学習結果をモニターすることができる。				
GPAは科目毎の成績評価に対して0.0点(不可)、1.0点(可)、2.0点(良)、3.0点(優)、4.0点(優+)のグレードポイントをつけ、1単位当たりの平均成績評価点を算出する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
—	総合生活キャリア学科	62単位	囲・無	48単位
	幼児教育保育学科	62単位	囲・無	48単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		活用方法： 奨学金貸与資格、教職課程履修資格、留学の選抜等に利用している。 公表方法：『STUDENT HANDBOOK』p69に記載 (https://www.siu.ac.jp/assets/pdf/2025sijc.pdf)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)				

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20240607_103942.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	総合生活 キャリア 学科	1年次 765,000円	230,000円	130,250円	施設費、教育充実費、学生研修費、学研災保険料
		2年次 795,000円		165,000円	施設費、教育充実費
	幼児教育 保育学科	1年次 835,000円	230,000円	140,250円	施設費、教育充実費、学生研修費、学研災保険料
		2年次 845,000円		175,000円	施設費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 学生の修学全般に関する支援体制</p> <p>本学では教育理念（建学の精神）に則り、「学生一人ひとりを大切にし、みつめ、伸ばす教育」を行うことを目的として、専任教員による「アドバイザー制度」を実施している。学科長より任命された教員がアドバイザーとなって学生を担当し、学生の学習（履修や単位）や進路、学生生活などに関する支援と指導を行っている。</p> <p>アドバイザーは半期ごとに個別面談を実施することとし、必要に応じて他部署（教務課、学生課、学生サポートセンター、ライティング・ラボなど）と連携しながら支援と指導を行う。また、日常の面談はオフィスアワーで適宜実施する。アドバイザーの主な役割は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に関すること（履修指導、学習の進め方に関する相談など） ・ 進路に関すること（学籍異動に関する相談、就職や進学に関する相談、留学やボランティアなど諸活動に関する相談） ・ 学生生活に関すること（人間関係、健康面の相談、ハラスメント等の相談） ・ 関係書類の作成（奨学金、留学、就職、進学等の書類作成、面談記録の作成など） <p>2. 成績不振学生を対象とした学修支援プログラム</p> <p>本学では、各学期の成績（GPA 又は修得単位数）が所定の基準に届かなかった場合に、当該学生の成績向上に向けてアドバイザー教員を中心としたバックアップ体制を構築し、定期的な面談を行いながら、必要な支援を行う。</p> <p>3. ライティング・ラボにおける学修支援</p> <p>本学は教育の質保証及びその一層の向上を図るために、「ライティング・ラボ」を設置している。主な機能は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学的な学習支援施策の企画及び実施 ・ 学修相談（レポート等の文章作成、プレゼンテーション方法、学習ツールの活用等） ・ 個別学習スペースの提供 ・ グループ学習スペースの提供 ・ パソコン貸出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動の推進及び支援に関すること
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 初年次からのキャリア支援</p> <p>学生が将来の活躍の場を考え、一人ひとりが自分のキャリアデザインをイメージできるように、段階的なプログラムや資料、情報を提供する。主な支援としてアドバイザー教員との連携、就職ガイダンス・講演会の開催、就職適性テストの実施、業界研究セミナーの開催、合同企業説明会の開催、資格取得講座の開催等がある。</p> <p>2. キャリア支援センター</p> <p>「キャリア支援センター」は、就職・進学活動に取り組む学生をさまざまな面からサポー</p>

ト。進路についての相談や就職に関するアドバイス、職員及び外部キャリアアドバイザーを招聘し、面接や履歴書の書き方の指導なども行っている。
各業界とのネットワークも幅広く、企業や就職に関する情報を豊富に蓄積。就職や進学、キャリアアップについて、最大限の支援をしていく。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身両面の健康増進及び修学支援の充実を図り、質の高い教育環境の保証及びその一層の向上に資するため、学生サポートセンターを設置している。

学生サポートセンターには、福祉の国家資格を持つキャンパス・ソーシャルワーカーや公認心理師・臨床心理士の資格を持つ心理カウンセラーが所属しており、障がいを抱える学生や困りごと、心配事のある学生の修学支援（合理的配慮）の相談をはじめ、学生生活を送るうえで出会う様々な問題や悩みを受け止め、より良い解決方法を共に考える場を提供している。

また、保健室には、看護師資格を持つ職員を配置し、急病やケガなど日常の応急手当、その他の健康に関することの相談に応じている。

さらに、学生サポートルームには、フリースペースや個別学習室、セミナールームなどを備え、学生の皆さんが思い思いの時間を過ごすことが出来る空間も提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://siu.ac.jp/about/detail.html?content=22>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

